

比企郡市の板碑

第19期 歴史・郷土学部課題研究C班



○岩崎 進
○小林 晴美
◎柿崎 隆幸
長谷部 道恵

清水 茂
斉藤 善重
野嶋 哲夫
大澤 栄
新井 美代
長島 悦子
伊達 穂積
加島 一彦
長谷部 昌司

◎リーダー
○サブリーダー

目次

1. はじめに
2. 板碑について
3. 東松山市内の板碑について
4. 埼玉県内板碑の採石場
5. 珍しい板碑
6. まとめ

1 はじめに

(1) テーマ選定理由

普段何気なく神社仏閣等を散歩していると、三角頭の青い石が建っているのを良く見かけます。この青い石をよく見ると中央部分に大きな字が彫られており、日本語ではない字、または仏様等が彫られているのを見て、これは何だろうと思われた方もいるのではないのでしょうか。そこで、この青い石のことについて調査しました。

これは「板石塔婆」又は「板碑」（今後板碑と記載）と言われ、鎌倉時代から室町時代まで造立された歴史的価値があるのが分かりました。この板碑を調査し、当時の社会経済、信仰、採石、輸送などから当時の武士、農民等の暮らしを知ること、新たな視点から郷土の歴史探訪が出来るのではと考え、テーマを選定しました。

(2) 活動記録

No	月日	活 動 内 容	場 所
1	4/13	板碑の説明、活動方針検討	研修室
2	4/20	板碑の採石場について説明	講堂
3	4/27	板碑視察計画、打合せ	研修室
4	5/3	長瀬町板石塔婆石材採掘遺跡見学	校外
5	5/11	長瀬町板石塔婆石材採掘遺跡報告	研修室
6	5/18	東松山市内の板碑調査の担当を割り振り	研修室
7	5/20	板碑見学・松本町 個人蔵 板碑見学・高坂 正法寺	校外
8	5/23	板碑見学・上野本 清見寺	校外
9	5/25	市内板碑の報告	研修室
10	5/29	板碑見学・下青鳥 浄光寺 板碑見学・神戸 妙昌寺	校外
11	6/1	熊谷市江南文化財センター新井端氏による講義	校外
12	6/5	板碑見学・小川町大聖寺/下里青山板碑製作遺跡	校外
13	6/22	元嵐山史跡の博物館館長諸岡勝氏による講義	研修室
14	7/6	レポート資料内容検討	研修室
15	8/22	板碑見学・北本市 東光寺 壽命院 板碑見学・吉見町 観音寺	校外
16	9/7	レポート資料検討	講堂
17	9/21	レポート資料検討	講堂
18	10/12	レポート資料検討	研修室
19	11/2	レポート資料校正検討	講堂

2 板碑について

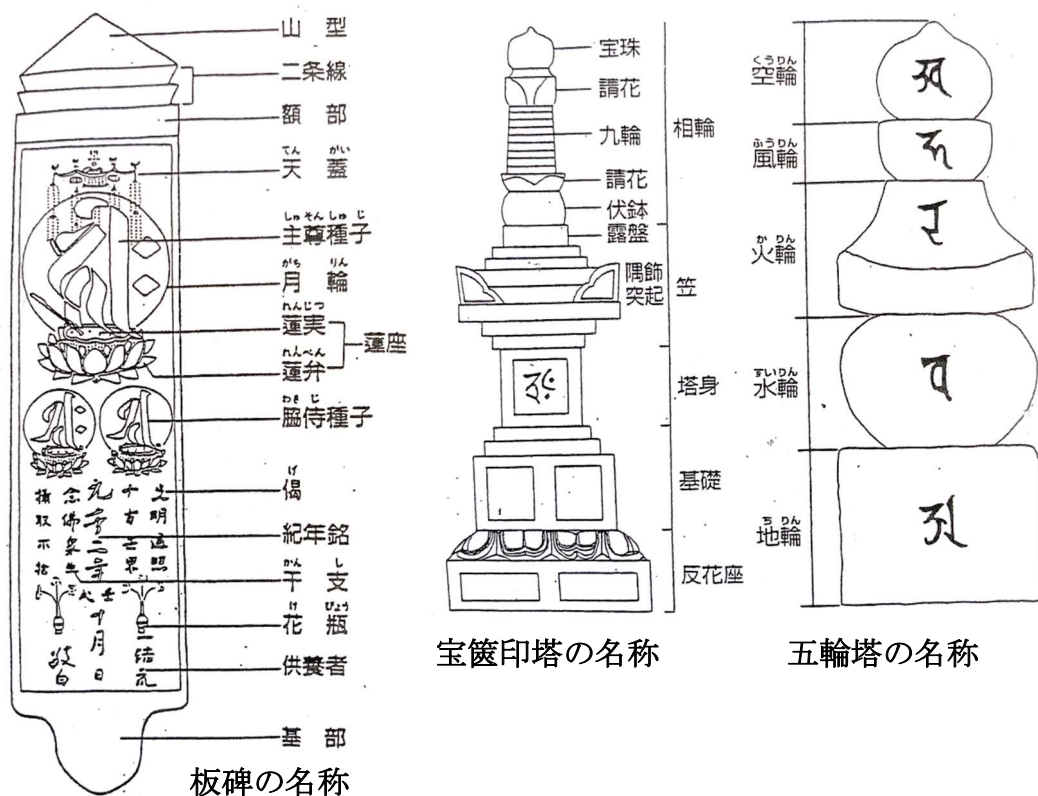
(1) 板碑とは何ですか

板碑は鎌倉時代の13世紀初めから戦国時代の16世紀末にかけて作られた石塔の一種で、板状の石で作られた卒塔婆です。平安時代後期に末法思想が広まり、貴族を中心に浄土信仰や小塔供養が盛んになりました。それに伴い五輪塔や宝篋印塔などの石塔が造立されるようになり、こうした流れの中で板碑も作られるようになったといわれています。板碑は五輪塔を基にして発生したと考えられています。

造立趣旨は、両親など亡くなった者の追善供養や、生前に死後の冥福のために行う逆修供養が多いです。

(2) 歴史的経緯

- ① 板碑の起源について、定説といえるものはないが、一般に有力視されている説は、平安時代より供養塔として建てられた五輪塔の形が圧縮され、板碑特有



「武蔵武士の信仰と板碑」R4. 6. 22 諸岡 勝氏講義資料より引用

の頂部三角形とその下の二本の刻線などの各部の簡略化によって発生したと思われまます。板碑の形式は、五輪塔よりも銘文を刻んだり図像を加工することが容易なので広く流布しました。

- ② 鎌倉時代に石造に変わる際に、その土地で産出する石材の性質により様々な形状が生まれました。武蔵（埼玉県）や阿波（徳島県）で採れる緑泥片岩は板状に割れるため板状の板碑、関西に多い花崗岩は柱状の板碑が多く見られます。

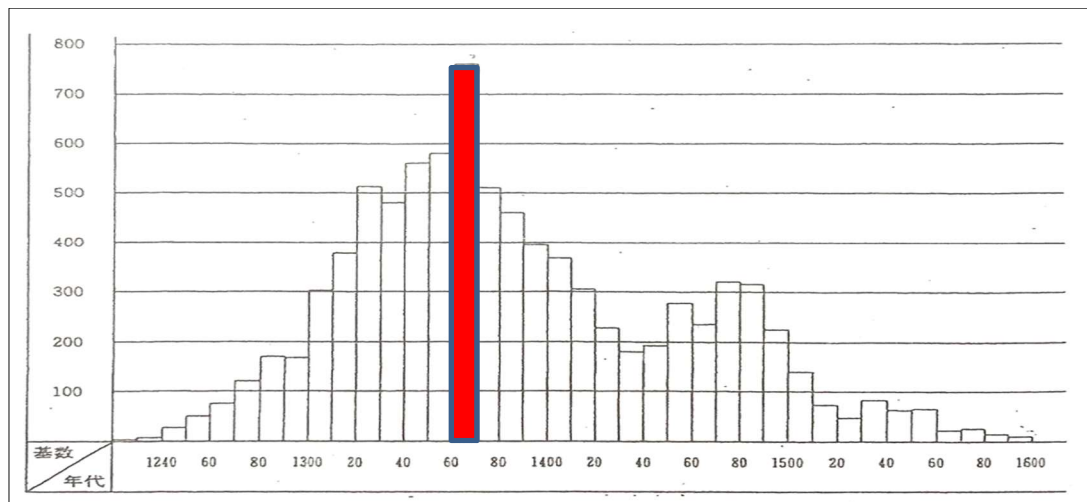
- ③ 鎌倉時代に入り、それまで貴族を対象とした仏教から武士階級・一般庶民を対象とした信仰思想の変革が起こり、政治・経済・社会も劇的な構造変化や発展がみられる。浄土教は、阿弥陀仏の導きにより死後、極楽浄土へ迎えられると説くものです。一心に「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることで極楽往生できるという教義は、多くの武士たちに受け入れられました。阿弥陀種子板碑は、こうした浄土教による阿弥陀信仰の影響が強く反映したものと考えられます。
- ④ 板碑造立の担い手である武蔵七党の丹党は、秩父長瀨にあった「石田牧の別当」（管理者）で、丹治氏を祖として秩父・児玉・入間・高麗郡に分散し、それぞれ領地の地名を名字に名乗りました。

鎌倉時代の武蔵七党を主体として板碑が造立され、鎌倉武士たちの人的流動や宗教として浄土教から禅宗などへ移行し、宗教情勢変化等と相まって地方へ広まったと考えられます。

- ⑤ 武蔵型板碑（青石）の文化圏東の境～茨城県には「武蔵型板碑」と「常総系板碑」が分布し、境界は、小貝川流域に沿っています。これは、石材の青石が父から切り出され遠路運ばれていったことを示しています。また、西の境は長野県の中央にあたる筑摩山地といわれています。これは、石材の産地が秩父一か所に限られていたためと思われる。

なお、全国での板碑造立は、鎌倉時代中期以降が中心で造立数は少ないが、北海道から九州南部までの広い範囲で確認されています。

- ⑥ 板碑造立の終焉のはっきりした理由はありませんが、15世紀に入ると武蔵型板碑の文化圏は、室町幕府の解体とともに青石の広域的な流通路の維持が困難となってきました。また、宗教・社会での変化や板碑形式の墓碑化（種子の矮



埼玉県全体の板碑造立推移

「武蔵武士の信仰と板碑」R4. 6. 22 諸岡勝氏講義資料より引用

小化) が見られ、その功德が供養者と被供養者に回向するという板碑本来の役割が変化し、故人を直接供養する墓標（墓石）や位牌などになっていったと

する見解があります。(千々和到(1988)「板碑とその時代」平凡社、入間市立博物館(2016)「板碑で読み解く武士と寺院」関東図書より引用)

3 東松山市内の板碑について

市内に現存する把握板碑数は、約 180 地点に 1067 基、五輪塔 41 基、宝篋印塔 41 基で、これは埼玉県内の約 4 パーセントにあたります。また、指定文化財は、県指定 5 基、市指定 14 基の合計 19 基となっています。

ここでは、当研究会が調査した市内の主な板碑について紹介します。

(1) 松山城主上田朝直の板碑 (松山地区) 県指定 (昭和 12 年 (1937))



元亀 2 年 (1571) に武蔵松山城主上田朝直が命を捧げてくれた家臣や先祖の冥福を祈って造立したものです。板碑は日蓮宗の題目板碑と呼ばれ、日蓮らしく髭文字で記されています。

この板碑は、下沼畔、俗にいう経塚と呼ばれる塚の上にはありましたが、江戸時代に壊され、半ば土に埋まった状態或いは沼に沈んでいたものを昭和 12 年に上田氏末裔の方が現在地に移されたものです。(横田隆史 (2018) 東松山市の今昔あれこれ第 2 号)より引用

(2) 妙昌寺の題目板碑 (唐子地区) 県指定 (昭和 40 年 (1965))



この板碑は、貞和 2 年 (1346) に日蓮上人 65 回忌の供養のため造立され、日蓮宗独自の題目中心主義となっています。「これが鎌倉末期から南北朝に入り造立された板碑には、日蓮宗独特の筆法、光明点 (髭題目) がはっきりと確認できました。」

(3) 正法寺の板碑 (高坂地区)

① 六面幢 ろくめんどう 県指定 (昭和 5 年 (1930))

緑泥片岩の板碑 6 枚を六角形に組み合わせたもので、天正 10 年 (1582)、岩殿山の僧道照が造立したものと伝えられています。現在は眼下に正法寺本堂をはじめ参道が望める場所にひっそりと佇み、歴代の僧を菩提する思いが偲べれます。



② 阿弥陀一尊板碑、阿弥陀三尊板碑 市指定（昭和 55 年（1980））

紀年銘は不明だが、阿弥陀如来の立像が臼のような蓮座の上に描かれ、鎌倉時代初期の板碑として重要性が評価されています。さらにはつきりしたポットホールが確認でき、川底の石を利用して作られたものと考えられています。

＊「ポットホール」川底にある岩が、水流で回転し、徐々に削られてできた穴のこと。



(4) 青蓮寺の板碑(高坂地区) 県指定（平成 15 年（2003））

この板碑は、小代氏四代目の重俊の親族、関係者が重俊や先祖代々の靈魂の安穩のために造立したものです。

小代氏は、宝治合戦の時の勲功により肥後国野原庄（熊本県荒尾市）、土佐国稲吉名の地頭職を得ました。文永 8 年（1271）鎌倉幕府は蒙古襲来への備えのため、九州地方に所領を持つ御家人に現地への下向を命令しました。

重俊の子息等は下向後も庶流は小代郷に残留しました。



(5) 光福寺の板碑(大岡地区) 県指定（昭和 40 年（1965））



この板碑は、県内における図像板碑のなかでも、特に美術工芸的に優れていることから、昭和 40 年に埼玉県有形文化財として指定されています。嘉元 4 年（1306）年銘の阿弥陀三尊図像で、三尊は飛雲に乗り、浄土から死者を迎える来迎の姿を示しています。

この板碑の紀年銘のほかには銘文がないため、造立者を知る手がかりがありません。この付近一帯は、市内においても板碑の分布が希薄で、同地区では初現です。これと隣接して建てられている元亨 3 年（1323）の宝篋印塔（重要文化財）は板碑の造立から 18 年後です。この付近には相当の勢力を有した土豪がいたと思われ、両者を同族の者が造立したことは十分考えられます。

（光福寺宝篋印塔（1979）東松山市教育委員会より引用）

(6) 浄光寺の板碑（野本地区） 市指定（昭和 45 年（1965））

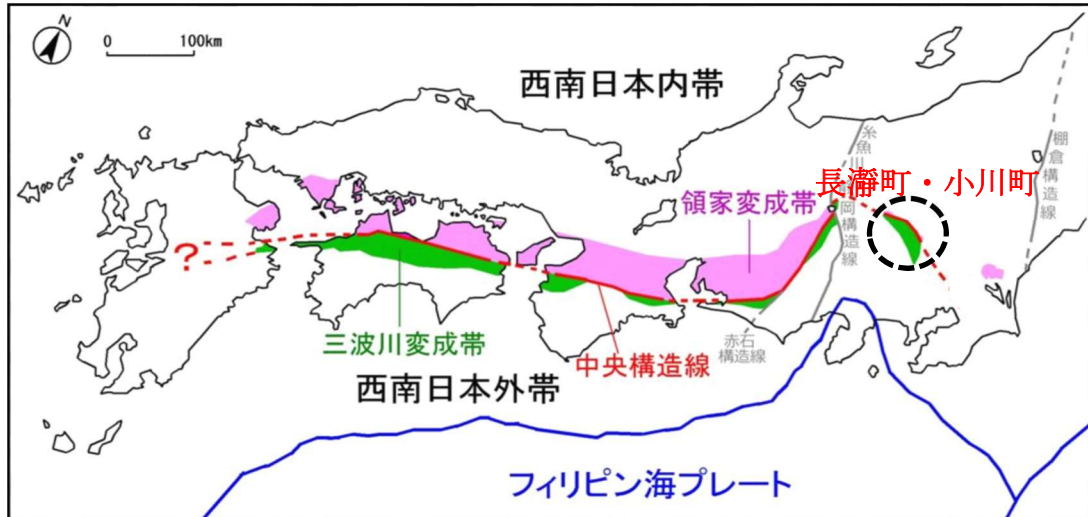
寺に残されている資料によると、3 枚の板碑は、昔田圃の畔の橋に使われていたのを、大正 13 年にお寺に移設したとのこと。鎌倉時代から江



戸時代にかけて造立された3基の板碑が整然と並んで寺の境内に収まっています。

4 埼玉県内板碑の採石場

(1) 板碑の石材について



大鹿村中央構造線博物館ホームページ「中央構造線」より引用

埼玉県では2万7千基を超える板碑が確認されています。それは、板碑に最適な石材である緑泥片岩の国内有数の産地だからです。

緑泥片岩は結晶片岩といい、日本列島に沈み込むプレートによって地下深くに押し込まれた岩石で、高い圧力によって押しつぶされ、薄く平らに剥がれやすい性質になったものです。地表に露出している場所が「三波川変成帯」という地質構造体で、約7千万年前に地下深くで押しつぶされ、隆起して地上に出てきたもので、関東地方から中部地方、紀伊半島、四国、九州まで1千キロにわたって連続しており、地上に露出した部分は少なく埼玉県内には小川町と長瀨町にこの主な分布地があります。

(2) 採掘現場

① 小川町「下里・青山板碑石材採掘遺跡群（割谷採掘遺跡）」

この遺跡は、石材発掘から板碑形へ加工するまでの行程が初めて明らかになった貴重な遺跡群で、平成26年10月に国指定史跡に指定されました。14～15世紀の板碑最盛期の需要を支えた遺跡群と考えられ、ここから川を下った入間川流域に板碑が供給されていたと考えられています。更にこの遺跡を含め19箇所もの採掘遺跡が確認されています。

遺跡では成型するための加工痕が残る石材等が確認され、採掘から加工までの行程が明らかになりました。一方で二条線や種子、紀年銘などを刻んだものは一点も見つかっておらず、ここで粗製形された未製品が素



材として各地へ供給され、造立近くで板碑に仕上げられたと考えられます。

採掘場の近くには、大聖寺という天台宗のお寺があり、山号を「石青山」といいます。緑泥片岩は通称「青石」と呼ばれることから、緑泥片岩に由来した山号と考えられます。

② 長瀨町「板石塔婆石材採掘遺跡」

秩父郡長瀨町野上下郷滝の上に所在する露頭は石材採掘遺跡として、昭和 38 年 8 月に埼玉県の旧跡に指定されています。石切場と呼ぶこの場所は、秩父鉄道樋口駅の西北、山腹を 1.5 km ほど登った「古虚空蔵」（標高約 300m）と呼ばれる地にあり、当時の採石の様子をよく遺しています。



5 珍しい板碑

(1) 日本一古い板碑



市内最古（右から 2 番目）

現在確認されている最古の年号のある武蔵型板碑は、熊谷市（旧江南町）で発見された嘉禄 3 年（1227）銘の「阿弥陀三尊画像板碑」です。

熊谷市文化財センターの初期板碑の主尊や脇侍の陽

刻に感動し、板碑発見までの物語に歴史の流れを実感しました。※東松山市内で最古の板碑は、高坂地内にある「阿弥陀一尊板碑」寛喜元年（1229）銘です。



日本最古（熊谷市文化財センター）

(2) 最大の板碑

日本最大の板碑は長瀨町にある応安 2 年（1369）銘の「釈迦一尊種子板碑」で地上高 5.27m あります。この板碑は、戦により討死した仲山城主（阿仁和直家）の 13 回忌に出家した奥方（妙円尼）が追善供養の為に造立した記録があります。



日本最大 5.27m



比企・入間地方最大 3.75m

東松山市の青鳥城跡の東端オタメ池の淵に建ち応安 2 年（1369）銘があります。高さ 3.75m で比企・入間地方最大です。地元は「虎御石」と呼んでいます。

(3) 双式板碑

双式板碑は連碑ともいわれ、1枚の幅の広い石材で2基分を彫りだしています。こうした板碑は夫婦の逆修供養や追善供養のために造立されたと考えられています。埼玉県内では、破片も含め17基しか確認されていません。東松山市内では、現在まで確認されていません。



(4) 転用

① 古墳石室から板碑

古墳石材を利用した板碑は、行田市、熊谷市周辺に 双式板碑（大梅寺）十基ほど確認できます。いずれも武蔵七党をはじめとする武蔵武士が活躍した地であり、開発領主としての武士たちは、板碑造立にあたり、古墳石材を積極的に活用していたことがわかります。

② 板碑から手裏剣

岩付城址（岩槻城）の発掘調査で、六角形に形成された緑泥片岩が「石製平つぶて」と報告されています。また、さいたま市の他の発掘調査では、板碑の文字が刻まれているものも発掘されています。

この発掘調査報告書では、「つぶて」は投てき用の石弾（手裏剣の原型）と判断されています。

6 まとめ

(1) 研究を終えて

板碑は今から800～600年前、我が郷土の先人たちが信仰心により造立したものです。板碑の発祥地である武蔵の国埼玉県、板碑数は全国第1位を誇ります。埼玉県民は、忘れ去られた板碑のことについて、もっと知って欲しいと思います。

造立当時は、信仰心が厚く埼玉県から全国に拡散していったものが、300年後には廃れ、そして造立されなくなり記憶も薄れていきました。

今現在でも、雨風に晒され刻まれた文字が風化し読めなくなっている状態のものが多数あります。

我々板碑研究会は研究を進めるにつれ、「この供養のために造立された板碑を壊してはいけない、我々の手で保護し守っていく必要があります、それを後世に伝えていかなければならない」ということがよくわかりました。この様な貴重な文化財を保護し守っていくためにはより多くの市民の理解が必要です。

更に将来は、市民の板碑巡りのパンフレットなどを作成し、東松山市の観光推進の一助になればと提言させて頂き、本研究のまとめとします。

なお、この課題研究を進めるにあたり多くの方から、貴重なご助言をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、紙幅の都合により一部割愛させていただきましたことをお詫びいたします。

(2) ご指導、ご協力頂いた方（順不同）

- ・熊谷市立江南文化財センター 新井 端氏
- ・元埼玉県立嵐山史跡の博物館館長 諸岡 勝氏
- ・東松山市 巖殿山正法寺住職 中島 栄氏
- ・東松山市 青鳥山妙昌寺住職 村井 惇匡氏
- ・東松山市 熊野山清見寺住職 白石 範昭氏
- ・東松山市 須藤 要氏（個人蔵）

(3) 参考文献

1. 大鹿村中央構造線博物館 HP「中央構造線」閲覧 2022年10月12日
2. 入間市博物館（2016）『板碑で読み解く武士と寺院』関東図書
3. 小川町教育委員会（2014）「下里・青山板碑石材採掘遺跡群-割谷採掘遺跡」『小川町埋蔵文化財調査報告書第33集』小川町
4. 埼玉県立嵐山史跡の博物館編（2017）『武蔵武士とその本拠』埼玉県立嵐山史跡の博物館
5. 埼玉県立嵐山史跡の博物館編（2021）『実相忍びの者』埼玉県立嵐山史跡の博物館
6. 千々和到（1988）『板碑とその時代』平凡社
7. 千々和実（1968）「武蔵国板碑集録 2-旧比企郡」『史跡と美術』史跡美術同好会
8. 千々和実（1974）「首都圏内板碑の爆発的大量初現とその誘因」『文化』駒澤大学文学部文化学教室
9. 東松山市教育委員会「光福寺宝篋印塔」（1979）東松山市
10. 東松山市教育委員会事務局市史編さん課編（1982）『東松山市史 資料編 第2巻』東松山市
11. 諸岡勝（2022）「武蔵武士の信仰と板碑」きらめき市民大学講義資料
12. 横田隆史（2018）「東松山市の今昔あれこれ第2号」